

地域看護学

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	2人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	12人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	17人

2 教官の異動状況

- 安梅 勅江（教授）（H13.4.1 現職）
荒木田美香子（教授）（H13.4.1 現職）
中谷 芳美（講師）（H13.9.1 現職）
永井 道子（助手）（H14.4.1 現職）
青柳 美樹（助手）（H13.4.1 現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0.58
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	7編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Anne T., Segel U. : Implications for the development of children placed in 11+ hours of center-based care, Child : care, health and development 30, 345-352, 2004.
2. 安梅勅江 : 長時間保育の子どもへの発達への影響に関する追跡研究 — 3年後の子どもの発達に関連する要因に焦点をあてて —, 日本保健福祉学会誌 : 10(2), 2-8, 2004.
3. 淵田英津子, 安梅勅江 : 保健福祉サービスにおけるエンパワメント環境の整備に関する研究 — 訪問面接とグループインタビューによる当事者主体のニーズ把握 —
インパクトファクターの小計 [0.58]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 荒井比沙子, 安梅勅江, 片倉直子, 佐藤泉 : 生活習慣が自覚症状に与える影響に関する研究, 日本公衆衛雑誌, 50(5), 435-445, 2003
2. 鏡森定信, 中谷芳美, 梶田悦子, 他 : 温泉利用とWHO生活の質 — 温泉利用の健康影響に対する交絡要因としての検討 —. 日温気物医誌67(2), 71-78, 2004.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Anne T. : Elder abuse and risk factors in Japanese families, Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Symposium, Tokyo (Japan), 2003.
2. Anne T. : Home Environment as a predictor of Child development; Japanese experiences, 3rd Assessing Home Environments across Diverse Populations, 2003.
3. Anne T. : Entrepreneurship and Empowerment in Japan, community care, 2003.
4. 安梅勅江, 訪問・通所リハビリテーションの地域特性別実態把握からみた在宅自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究, 長寿科学研究事業研究報告, 2004
5. 安梅勅江, 夜間に及ぶ長時間保育に関する5年間追跡実証研究, 子ども家庭研究事業研究報告, 2004
6. 安梅勅江他 : 静岡県新任保健師研修のあり方検討報告書, 静岡県, 2004
7. 安梅勅江他 : 目黒区地域福祉計画, 1-110, 2004

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 安梅勅江：夜間保育の子どもの発達への影響，乳児保育と赤ちゃん学：1(1)，2003.
2. 安梅勅江：今後の保健福祉学の発展に向けて，日本保健福祉学会誌：10(1)，2003.
3. 安梅勅江：ケアマネジメントにおける福祉用具・住環境支援の一体的有効活用とその評価法の開発に関する研究，長寿科学研究成果発表報告書，2003.
4. 安梅勅江：あぶない保育とプロ意識，全国夜間保育連盟，2003.
5. 安梅勅江：当事者主体のチームケアとエンパワメントに基づくケアマネジメント，Home Care Medicine：4(4)，2003.

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 安梅勅江（編著），ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法Ⅱ／活用事例編，医歯薬出版，1-157，2003
2. 安梅勅江：福祉用具マトリックス活用法，高山忠雄編，高齢者・障害者のための福祉用具活用の実務，第一法規，2003.
3. 安梅勅江（編著），良質な夜間保育サービスの拡充に向けて―夜間保育の特徴からみた質の評価の進め方，生かし方―〈マニュアル編〉，医療福祉事業団，2004
4. 安梅勅江（編著），良質な夜間保育サービスの拡充に向けて―夜間保育の特徴からみた質の評価の進め方，生かし方―〈実践編〉，医療福祉事業団，2004
5. 安梅勅江：高齢者・障害者配慮住宅，木村哲彦編，生活環境論，医歯薬出版，2003
6. 安梅勅江：リハビリテーション工学，現代福祉辞典，有斐閣，2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 佐々木美佐子，牛尾裕子，村田篤司，村井貞子，松田正巳，深江久代，三輪眞知子，奥野ひろみ，鈴木千恵，永田文子，小川亜矢，中谷芳美，他．2004年度版保健師国家試験問題―解答と解説―．医学書院看護出版部編（地域看護学Ⅱ「母子保健指導」「学校保健指導」の覚えておきたい重要事項を担当）医学書院．2003.

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (600万円)
(2) 厚生科学研究費	2件 (300万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	2件 (70万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

安梅勅江（代表者）萌芽研究 子どもの発達・健康等の6年間追跡調査に基づく長時間保育サービスの質評価指標の開発 110万円（継続）

荒木田美香子（代表者）基盤研究（C）(2)「幼児・思春期を対象としたコミュニティベースの育児サポートプログラムの有用性の研究」360万円（継続）

中谷芳美（代表者）基盤研究（C）(2)「地域高齢者のQOLを指標にした地域看護活動の評価方法の開発」130万円（継続）

(2) 厚生科学研究費

安梅勅江（代表者）長寿科学総合研究事業「訪問・通所リハビリテーションの地域特性別実態把握からみた在宅自立生活支援プログラムの開発評価に関する研究」100万円（新規）

安梅勅江（代表者）子ども家庭総合研究事業「夜間に及ぶ長時間保育に関する5年間追跡実証研究」200万円（継続）

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

安梅勅江（分担者） National Child Protective Services Project "Child Development and Home Environment" 代表者 University of Arkansas (USA) Robert Bradley 50万円（新規）

安梅勅江（分担者） St. Mary University Research Project "Empowerment for Older People-aging in place" 代表者 Mary McCall (USA) 20万円（新規）

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	4件
(2) シンポジウム発表数	2件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	2件	1件
(6) 一般演題発表数	1件	4件

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Anme T. : Home Environment as a predictor of Child development; Japanese experiences, 3rd Assessing Home Environments across Diverse Populations, Pittsburg (USA), April 2003.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Anme T. : Elder abuse and risk factors in Japanese families, Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo (Japan), November 2003.
2. Anme T. : Community Care and Empowerment; Prevention of Elder Abuse, 3rd Kyungpook Hamamatsu Symposium, September 2003

5) 一般発表

口頭発表

1. Anme T. : Entrepreneurship and Empowerment in Japan, community care, July, 2003. London (UK)
2. S. Kagamimori, Y. Nakatani, E. Kajita, et all. : Quality of Life (WHO-QOL) of Japanese Spa visitors- a Community based Survey-. The FEMTEC International Hot Spring Conference : 13-19, December (Taiwan), 2003.
3. E. Kajita, N. Gonai, Y. Nakatani, S.Kagamimori, et all. : The relationship between bone fracture experience and public participation in the elderly inhabitants. International Con-

ference on Progress in Bone and Mineral Research 2003. : 17, November (Austria), 2003.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

安梅勅江 (2004) 国際エンパワメント研究会 1月 浜松

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 安梅勅江 (2003), グループインタビューの活用法, 第4回地域保健研究会, 5月, 鳥取
2. 安梅勅江 (2003), 健康日本21における質的研究法の活用, 第2回保健福祉研究会, 9月, 東京
3. 安梅勅江 (2003), あぶない保育とプロ意識, 第22回夜間保育研究会, 11月, 滋賀
4. 安梅勅江 (2003), 訪問リハとエンパワメント, 第3回仙台ケアマネジメント学会, 12月, 仙台

4) 座長をした学会名

安梅勅江 (2003) 第16回日本保健福祉学会 12月 東京

安梅勅江 (2003) 第22回夜間保育研究会 11月 滋賀

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

安梅勅江 International System Sciences in Health Social Services for Elderly and Disabled
理事

安梅勅江 International network for the prevention of elder abuse 理事

安梅勅江 日本保健福祉学会 理事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

日本保健福祉学会誌 安梅勅江 2件

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	5件
(2) 国内共同研究	4件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

Ariela Lowenstein (Hifa Aging Research Center, Israel), Old Age and Autonomy: The Role of

Services and Intergenerational Family Solidarity (OASYS Project)

Robert Bradley (Univ. Arkansas, USA), Comparative study for child care environment

Cecilia Hening (Jonkoping University), Care of Older People-developing a distance course on the internet

Duncan Boldy (Univ. Curtin, Australia), Donna Benton (Univ. Southern California, USA), International professional skills development

Uma Segel (Univ. Missouri, USA), Comparative study for child care and development

(2) 国内共同研究

牛島廣治（東京大学），在日外国人の母子保健システム研究

汐見稔幸（東京大学），乳児保育質評価指標開発研究

大橋謙策（日本社会事業大学），目黒区地域保健福祉システム研究

平澤則子（新潟県立看護大学），豪雪地域における地域ケアニーズ研究

鏡森定信（富山医科薬科大学医学部）温泉利用健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究

島内 節（東京医科歯科大学大学院）在宅ケア軽度要支援高齢者の日常生活行動の自立度向上に有効なケアプランの国際比較

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	1件

1. 西川産業株式会社，健やかで安らぎのある生活空間の形成 — 美的倫理的ヒューマン・エコシステムの要件 —

11 受賞

(2) 外国からの授与

安梅勅江，客員教授，群山大学，韓国

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 地域ケア専門職の専門性評価国際比較研究

本研究は、国際的に共通指標として活用可能な地域ケア専門職のケアマネジメント評価法の開発を目的としている。本年度は日本と米国にてケアマネジメントにおける連携に焦点をあてた評価について、フォーカスグループインタビュー法を用いた質的研究により、「基本技術」、「マネジメント技術」、「評価技術」の3領域別に具体的な指標項目を作成した。

（安梅勅江）

2. 健康長寿への影響要因研究

本研究は、地域住民の長期にわたる追跡調査により健康長寿への影響要因を明らかにし、地域ケアの展開方策につき科学的な根拠を得ることを目的としている。対象は愛知県T村（人口5,000名）の全住民であり、健康診査、質問紙調査、面接調査、訪問調査、介入評価を含む総合的なプロジェクトを構成し、経年変化を評価している。本年度は14年後の評価を実施し、社会とのかかわりや積極的な社会貢献の意識が、性別、年齢、日常生活動作、罹患状況等の影響を除外した後も強く予後に関連することを明らかにした。

（安梅勅江）

3. 地域における子育て支援 — 子どもの発達保障のための環境評価 —

本研究は、少子高齢時代の多様化する子育て支援ニーズに対応するため、子どもの発達保障からみた環境整備の具体的な方策を明らかにすることを目的としている。対象は全国の子育て支援を利用する子どもと保護者4,000組であり、質問紙調査、面接調査、発達評価、遊び観察等を毎年追跡的に実施し、子どもの発達に影響を与える複合要因の強度を測定している。本年度は5年後の影響要因の評価を実施し、子育て支援における環境整備として、家庭における子どもとのかかわり促進のための機会の提供、相談機能等育児サポートの重要性を明らかにした。

（安梅勅江）

4. ユニバーサルデザイン研究

本研究は、WHOのICIDH-2（国際障害分類第2版）に基づき、Participationを促進するための総合的な環境整備に向け科学的な根拠を得ることを目的としている。本年度は訪問リハビリテーションに焦点を当て、快適な生活空間の実現に向け、住環境と福祉用具の一元化の評価指標を開発した。

（安梅勅江）

5. 地域エンパワメント研究

本研究は、地域住民の自己効力及び問題対処の力量を高めるエンパワメントに向けた支援の方法論を明らかにすることを目的としている。本年度は3つの自治体において「健康日本21」策定のための住民及び関連支援機関のエンパワメントに注目した量的・質的調査の複合分析を行い、住民主体の施策策定のモデルを構築した。

（安梅勅江）

6. 企業のメンタルヘルスと年齢階級別強化対策に関する研究

本研究では、1社の社員を対象にメンタルヘルスの現状と関連要因を明らかにし、年齢階級別の特徴からメンタルヘルスケア対策を検討することを目的とした。質問項目に、一般属性、交代勤務の有無、平均残業時間、仕事の満足度、精神健康調査票（GHQ28）、首尾一貫感覚（SOC）、過去一ヶ月間のライフイベント等を含めた質問紙調査を、電気製造業A社の社員に行った。その結果、神経症症状の関連要因と各年齢階級の特徴が明らかになり、さらに、年齢階級別にメンタル

ヘルスケア対策において強化する必要性のある項目が明らかになった。

(永井道子, 荒木田美香子)

7. 小・中学校教師のメンタルヘルスと職場の人間関係に関する研究

本研究では、小・中学校教師のメンタルヘルスと生徒・同僚・上司との人間関係との関連を明らかにすることを目的とした。A市の小・中学校教師を対象に精神健康調査票（GHQ-28）及び生徒・同僚・上司との人間関係に関する項目等を質問紙で把握した結果を分析した。

精神的不調を引き起こすまでに至った教師は、生徒・同僚・上司との人間関係において、複数の問題を抱えていることが明らかになった。生徒と同僚から無視された経験を持つ教師は約4倍、同僚や上司に仕事上の悩みを相談できない状況にある教師は約3倍、精神的不調を引き起こしやすいことが分かった。

(永井道子, 荒木田美香子)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

研究の独創性，国際性，継続性，応用性は下記の通りである。（安梅勅江）

1. 14年間にわたる子どもから高齢者までの全地域住民を対象とした健康維持・増進に関する詳細なフィールド追跡研究は、日本ではほとんど存在しない。また子どもの発達への影響要因について、5年にわたり全国規模で追跡調査した研究は本邦初である。これらの経年的な成果から抽出されたSocial Affiliation Modelは極めて独創性の高いものと評価されている。

2. さらにEU研究事業のOASYS Projectに参加し、日本、イギリス、ドイツ、イスラエル、ノルウェー、スペイン、イタリアの7カ国における文化背景比較から、formal careとinformal careの役割分担に関する国際的な評価指標作成、国際専門性評価指標の共同研究に参加し、著書の出版等、地域ケア研究において、成果を世界に向け発信し各国研究者と「知の共有」を図っている。

3. これらの成果は、国際機関をはじめ、日本のユニバーサルデザインJIS規格、厚生労働省の子育て支援重点施策、高齢者の雇用促進施策への反映、自治体の「地域保健福祉計画」、「健康日本21」策定等、個人及び地域のWell Beingの実現に有効に活用されている。

15 新聞，雑誌等による報道

16 開発途上国等への国際協力（先進国への国際協力も含める）：

17 教職員等の受け入れ・派遣について

1) 短期間訪問

Mary McCall (Univ. St.mary, USA), Empowerment as professional skill

2) 外国の研究活動

大学院生3名，中国，2003-2005，中国における高齢者への地域ケアの現状と課題

4) 海外への留学

原田亮子，ミズーリ大学（米国），2002年9月～2004年3月，高齢者地域ケアの日米比較，自費